



『全国学力・学習状況調査』の結果を受けて

本年度4月18日(火)に小学校6年生と中学校3年生を対象に行われた『全国学力・学習状況調査』の結果が、8月28日(月)に新聞等で公表されました。報道された順位等に一喜一憂することなく、目の前の生徒の課題を冷静に分析し、それぞれに合った対応ができるよう、今後も見通しを持った指導を続けていきたいと思えます。

本校の3年生については、以下のような結果になりました。

【学力調査】

教科	県平均との比較	全国平均との比較
国語A (主として知識)	◎	◎
国語B (主として活用)	◎	◎
数学A (主として知識)	◎	◎
数学B (主として活用)	○	◎



※県平均・全国平均に対し、上回っている◎・ほぼ同じ○・下回っている△で表記しました。

〈国語について〉

「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の4領域のほとんどの設問について、県・全国平均を上回る正答率でした。特に、国語Bは、大幅に上回っていました。あえて多少低いものを探すと、国語Aの「先生から必要な情報をもらうために適した発言に直す」(相手に分かりやすいように語句を選択して話す)問題くらいですが、本校の重点目標である表現力にかかわる問題なので、今後の改善をめざして授業でも意識して扱っていききたいと思います。

〈数学について〉

数学Aでは「数と式」「図形」「関数」「資料の活用」のいずれも、県・全国平均を上回りました。数学Bでは「数と式」のみ県平均をわずかに下回りましたが、「図形」「関数」「資料の活用」については、県・全国平均を上回りました。数学A、Bいずれも、「図形」「資料の活用」の正答率が県・全国平均を大きく上回っており、数学の授業で考える場面に意欲的に取り組んでいる本校3年生の特徴が現われた結果であるといえます。ただ、県・全国平均が20%を下回るような問題については、本校の正答率が県・全国平均を下回るものが目立ちました。

〈方策〉

伊豆市では本年度、共通研修テーマとして「自ら学習に向かい 学び合いを通して 力が付く授業づくり」を掲げて授業改善に取り組んでいます。本校では、昨年度に続き、課題を自覚するための「学習課題の提示」、わかったことを実感するための「振り返りの場面の設定」に、全教科共通で毎時間取り組んでいます。また、かわり合いの場面では、「どうということ？」という問い直しを通して、聞き手としてのスキルアップを図っています。さらに、学びの実感を積み重ねるために、ノート指導にも力を入れています。授業での思考の流れがわかるような構造的なノートは、復習にも大いに役立ちます。一日1ページの漢字の書き取り練習など、今回の調査でも成果になって表れているものについては、今後も継続していきたいと思えます。本年度の3年生については、全体的には好成績でしたが、平均点にとらわれることなく、個々の見取りをきちんと行った上で、それぞれに合った支援を大切にしていきたいと思えます。

【学習状況調査】

教科	県平均との比較	全国平均との比較
国語への関心等	◎	◎
数学への関心等	○	○
総合的な学習の時間の活動	◎	◎
規範意識	◎	◎
自尊感情	◎	◎
言語活動・読解力	△	△
生活習慣	○	○
学習習慣	◎	◎



※県平均・全国平均に対し、上回っている◎・ほぼ同じ○・下回っている△で表記しました。

◎「国語への関心」では、すべての質問において、県・全国平均を大幅に上回りました。「読書は好き」と答える生徒の割合も、県・全国平均を上回っています。

○「数学への関心」では、「数学ができるようになりたい」と思っていて、授業で努力している生徒の割合が県・全国平均を上回っていますが、「数学の勉強が好き」な生徒の割合は、県・全国平均と同程度です。

◎「総合的な学習の時間の活動」にかかわる質問では、県・全国平均を大幅に上回りました。この結果は、「天城学習」に力を入れ、大いに成果を上げている本校の大きな特長です。

◎「規範意識」では、すべての生徒が「学校の規則を守っている」と回答しました。

◎「自尊感情」では、「自分には、よいところがあると思う」生徒の割合が、県・全国平均を大幅に上回っています。「学校に行くのが楽しい」と答える生徒も、県・全国平均を大幅に上回り、否定的な回答をした生徒はほんのわずかです。

△「言語活動・読解力」では、「友達の前で自分の考えや意見を発表すること」が得意な生徒は県・全国平均を上回りますが、苦手な生徒の実数が半分程度いることを考えると、引き続き本校の課題として認識し対応していく必要があります。「考えを人に説明したり文章に書いたりすること」が苦手な生徒の割合は、県・全国平均より高くなっています。

○「生活習慣」では、朝食摂取率、起床・就寝時刻の質問とも、比較的良好な結果が出ています。

◎「学習習慣」では、「授業の予習をしている」という生徒の割合は、県・全国よりも若干高い程度ですが、「家で宿題をしている」「授業の復習をしている」生徒の割合は、県・全国平均よりもかなり高くなっています。

「その他」：◎全員が「学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある」と回答しているのは、葵流祭で味わう達成感や成就感の表れであると考えられます。◎「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある」生徒の割合が高いにもかかわらず、○「地域の行事に参加している」生徒の割合は、それほど高くはありません。学校としても、場面の設定を地域にお願いし、生徒に参加を促していく必要があります。

〈方策〉

学習については、わかる喜びが授業の楽しさにつながると考え、前述のような、授業改善や補習に取り組んでいきたいと思えます。数年前は本校の課題だった「自尊感情」については、総合的な学習の時間や学校行事など、様々な教育活動の成果として大いに改善しました。引き続き、生徒が集団としても個人としても自信を持って自己表現ができる場を設定し、一人一人に寄り添って支援していきたいと思えます。総合的な学習の時間等で、学校から地域を見つめる目は育っています。地域の防災訓練や伝統的な行事などへの参加態勢についても、いっそうの後押しをしていきたいと思えます。

最後に、スマートフォンやゲーム機については、本校3年生の所有率は高いが、使用状況は県・全国平均と比べて高くはありませんでした。受験を意識し、1, 2年時に比べて使用時間を制限できている生徒が多いようです。ただ、未だに多くの時間使用している生徒については、家庭学習の習慣が身につかず、疲労を蓄積させている実態もあります。また、ネットによるトラブルなども生じています。学校と家庭が連携し、今後この問題について継続的に考え、情報を共有し、対策を講じていきたいと思えます。

